【From Kobe 2023 ９月】

【収録 1】 文珍さんの落語見聞録　神戸新聞　2023.8.17.朝刊より転記

盆の時期も終わりましたが、「お盆のナスに似てきたなぁ」

神戸新聞

2023年（令和5年）8月17日 木曜日

神戸新聞社

落語見聞録

桂文珍

文化

お盆のナスに似てきたなあ

お盆の時期も終わった。毎年、故郷のわが家では、ご先祖さまを厚(あつ)く祭(まつり)て迎え火とし、御詠歌をあげ、仏壇にはお供え物のナスにはしを刺して、それを見ながら自分の身体に似てきたなあーと、思ったり。

親戚が集まり、その小さな男の子がお坊さんにお経をあげていただいてる時に走り回る、するとその父親が「ボウズ静かに！」と一喝する。お経をあげていたお坊さんがギクッ！「いや、あの、違うんです、違うんです」とまあよくありがちな風景。そして精霊流しよろしく送り火をして故郷のデカンショ祭、これがコロナ騒動も5類になってから、久々に行われた。残念ながら、こっちはコロナで自粛していた落語会や独演会も再開され、忙しくて参加できないでいる。

そんな中、昔からの友人で、名を並木君という、その並木君に久々に電話連絡をしたくなった。なぜなら、ニュースで某中古車の大手企業が店の前の並木を切ったとか、除草剤をまいたとか話題になっていたので「あーもしもし並木君、久しぶりやなあ」「おお、どうした？」「いや君が某中古車の会社に切られてないかと…思ってなあ」。さて、どう反応してくるかなと思っていると「アハハ…おかげでボクは切られてないけど、頭の上で除草剤をまかれたんかなあ、髪の毛が最近薄うなってな」と返してきた。なかなか面白い反応をしてくれて、落語家の私が一本取られた。

お盆はそんな昔の友達をふと思い出させてくれもする。

落語「三年目」はほれ合っていた夫婦の妻の方が病となり、亭主の片時も離れない看病のかいなく亡くなってしまう。亡くなる前に「もしも後妻をもたれたら婚礼の晩に幽霊になって出ておいで。そうすれば婚礼もムチャクチャになりオレは一生涯独身でいることになるから」と約束する。

やがて周りの人たちのすすめにあらがえず、後妻を迎えるが婚礼の日幽霊は出てこない。そして子供も授かる。3年目の法事を迎え、その晩、先妻が幽霊になって現れ、うらみを言う。「それならもっと早く婚礼の晩にどうして出てこなかったんだ」「だってわたしが亡くなった時、親戚で髪をおろしてわたしを坊主にしたでしょ。坊主では愛想をつかされるから、毛が伸びるまで待ってました」とかわいい嘶(いなな)だ。

今はいいウィッグがある。すぐ出ますよ。

（かつら・ぶんちん＝落語家）

＝次回は9月21日＝

今回の文珍さんはお盆の話　多くの人が故郷に帰省するお盆。
何となく人恋しくて、ふと頭に浮かぶ仲間に電話をして、昔話に興ずる。
また、予期せぬ仲間からの電話やメールが懐かしい。
今年のお盆は台風襲来・激変する天候。でも久しぶりの仲間との会話が弾むお盆でした。
年老いて ますます人恋し 酷暑の夏

落語は「３年目」　相思相愛だった妻がなくなって３年目
後妻を貰った旦那の所へ、亡くなった前妻が幽霊になって出てくる話。何で３年もたって・…と。

厳しい夏　今大きな話題になっている中古自動車販売の「ピッグ…」の話も織り込んで。
街で看板みかけることもあるが、関西では「車買うならハナテン・・」の旧名の方がなじみがある。
こんな事になってるんやと。みんな我が身大事　でも明日は我が身
ちょつと考えなだめなのでは。
落語のネタに　みんなが笑える社会になってほしいなぁ・・・・とも。
文珍さん　お盆のお供えのなすびみたいに太ったのかなぁ…

2023.9.5.　Mutsu Nakanishi